



Amazon EVS のレプリケーション プランを作成する

NetApp Disaster Recovery

NetApp
February 17, 2026

目次

Amazon EVS のレプリケーション プランを作成する.....	1
NetApp Disaster Recoveryでレプリケーション プランを作成する方法の概要	1
レプリケーションプランの作成: ステップ 1 - NetApp Disaster Recoveryで vCenter を選択する	1
レプリケーションプランの作成: ステップ 2 - NetApp Disaster Recoveryで VM リソースを選択する	2
レプリケーション プランの作成: ステップ 3 - NetApp Disaster Recoveryでリソースをマップする.....	2
コンピューティングリソースのマッピング.....	3
仮想ネットワークリソースをマップする	3
フェイルオーバー中のVM再構成のオプションを定義する	4
マップデータストア.....	6
レプリケーションプランの作成: ステップ4 - NetApp Disaster Recoveryの設定を確認する	6
NetApp Disaster Recoveryですべてが正常に動作していることを確認する	7

Amazon EVS のレプリケーション プランを作成する

NetApp Disaster Recoveryでレプリケーション プランを作成する方法の概要

オンプレミスサイトで保護する vCenter があり、DR の宛先として使用できる Amazon FSx for NetApp ONTAP を使用するように設定された Amazon EVS サイトがある場合は、オンプレミスサイト内の vCenter クラスタでホストされている VM のセットを保護するためのレプリケーションプラン (RP) を作成できます。

レプリケーション プランの作成プロセスを開始するには:

1. 任意の NetApp Disaster Recovery 画面から、レプリケーション プラン オプションを選択します。

[レプリケーションプランオプション]

2. レプリケーション プラン ページで、[追加] を選択します。

[レプリケーションプラン画面]

これにより、レプリケーション プランの作成ウィザードが開きます。

続ける["レプリケーションプラン作成ウィザード ステップ 1"](#)。

レプリケーションプランの作成: ステップ 1 - NetApp Disaster Recoveryで vCenter を選択する

まず、NetApp Disaster Recovery を使用して、レプリケーション プラン名を指定し、レプリケーションのソース vCenter とターゲット vCenter を選択します。

1. レプリケーション プランの一意的名前を入力します。

レプリケーション プラン名には、英数字とアンダースコア (_) のみを使用できます。

2. ソース vCenter クラスタを選択します。
3. 宛先の vCenter クラスタを選択します。
4. *次へ*を選択します。

[レプリケーションプランを作成し、vCentersを選択します]

続ける["レプリケーションプラン作成ウィザード ステップ 2"](#)。

レプリケーションプランの作成: ステップ 2 - NetApp Disaster Recoveryで VM リソースを選択する

NetApp Disaster Recoveryを使用して保護する仮想マシンを選択します。

保護する VM を選択する方法はいくつかあります。

- 個々の **VM** を選択: 仮想マシン ボタンをクリックすると、保護する個々の VM を選択できます。各 VM を選択すると、サービスによって画面の右側にあるデフォルトのリソース グループに追加されます。
- 以前に作成したリソース グループを選択: NetApp Disaster Recoveryメニューの [リソース グループ] オプションを使用して、事前にカスタム リソース グループを作成できます。他の 2 つの方法を使用して、レプリケーション プラン プロセスの一部としてリソース グループを作成できるため、これは必須ではありません。詳細については、"[レプリケーションプランを作成する](#)"。
- **vCenter** データストア全体を選択: このレプリケーション プランで保護する VM が多数ある場合は、個々の VM を選択するのが効率的ではない可能性があります。NetApp Disaster RecoveryポリュームベースのSnapMirrorレプリケーションを使用して VM を保護するため、データストアに存在するすべての VM がポリュームの一部として複製されます。ほとんどの場合、NetApp Disaster Recovery を使用して、データストアにあるすべての VM を保護し、再起動する必要があります。このオプションを使用して、選択したデータストアでホストされているすべての VM を保護された VM のリストに追加するようにサービスに指示します。

このガイド付きの手順では、vCenter データストア全体を選択します。

このページにアクセスする手順

1. レプリケーション プラン ページから、アプリケーション セクションに進みます。
2. 開いた*アプリケーション*ページの情報を確認します。

[レプリケーションプラン、アプリケーションページ]

データストアを選択する手順:

1. *データストア*を選択します。
2. 保護する各データストアの横にあるチェックボックスをオンにします。
3. (オプション) リソース グループ名の横にある鉛筆アイコンを選択して、リソース グループの名前を適切な名前に変更します。
4. *次へ*を選択します。

続ける"[レプリケーションプラン作成ウィザード ステップ 3](#)"。

レプリケーション プランの作成: ステップ 3 - NetApp Disaster Recoveryでリソースをマップする

NetApp Disaster Recoveryを使用して保護する VM のリストを作成したら、フェイルオーバー中に使用するフェイルオーバー マッピングと VM 構成情報を指定します。

主に次の 4 種類の情報をマッピングする必要があります。

- コンピューティングリソース
- 仮想ネットワーク
- VM再設定
- データストアのマッピング

各 VM には最初の 3 種類の情報が必要です。保護する VM をホストする各データストアには、データストアマッピングが必要です。

- 注意アイコン ([25.25]) では、マッピング情報を提供する必要があります。
- チェックアイコン ([25.25]) はマッピングされているか、デフォルトのマッピングがあります。これらを確認して、現在の構成が要件を満たしていることを確認してください。

このページにアクセスする手順

1. レプリケーション プラン ページから、リソース マッピング セクションに進みます。
2. 開いた*リソース マッピング* ページの情報を確認します。

[レプリケーションプランの作成、リソースマッピングページ]

3. 必要なマッピングの各カテゴリを開くには、セクションの横にある下矢印 (v) を選択します。

コンピューティングリソースのマッピング

サイトは複数の仮想データセンターと複数の vCenter クラスターをホストする可能性があるため、フェイルオーバーが発生した場合に VM を回復する vCenter クラスターを特定する必要があります。

コンピューティングリソースをマッピングする手順

1. DR サイトにあるデータセンターのリストから仮想データセンターを選択します。
2. 選択した仮想データセンター内のクラスターのリストから、データストアと VM をホストするクラスターを選択します。
3. (オプション) ターゲット クラスター内のターゲット ホストを選択します。

NetApp Disaster Recovery はvCenter でクラスターに追加された最初のホストを選択するため、この手順は必要ありません。その時点で、VM はその ESXi ホスト上で引き続き実行されるか、VMware DRS は構成された DRS ルールに基づいて必要に応じて VM を別の ESXi ホストに移動します。

4. (オプション) VM 登録を配置する最上位の vCenter フォルダの名前を指定します。

これは組織のニーズを満たすものであり、必須ではありません。

[レプリケーションプランの作成、リソースの計算]

仮想ネットワークリソースをマップする

各 VM には、vCenter ネットワーク インフラストラクチャ内の仮想ネットワークに接続された 1 つ以上の仮想 NIC を設定できます。DR サイトでの再起動時に各 VM が目的のネットワークに正しく接続されるようにするには、これらの VM を接続する DR サイトの仮想ネットワークを特定します。これを行うには、オンプレミス サイトの各仮想ネットワークを DR サイト上の関連ネットワークにマッピングします。

各ソース仮想ネットワークをマッピングする宛先仮想ネットワークを選択します

1. ドロップダウン リストからターゲット セグメントを選択します。
2. リストされているソース仮想ネットワークごとに前の手順を繰り返します。

[レプリケーションプラン、ネットワークリソースの作成]

フェイルオーバー中のVM再構成のオプションを定義する

各 VM は、DR vCenter サイトで正しく動作するために変更が必要になる場合があります。仮想マシンセクションでは、必要な変更を加えることができます。

デフォルトでは、NetApp Disaster Recovery は、ソースのオンプレミス サイトで使用されているのと同じ設定を各 VM に使用します。これは、VM が同じ IP アドレス、仮想 CPU、および仮想 DRAM 構成を使用することを前提としています。

ネットワークの再構成

サポートされる IP アドレスの種類は、静的と DHCP です。静的 IP アドレスの場合、次のターゲット IP 設定があります。

- ソースと同じ: 名前が示すように、サービスはソース サイトの VM で使用されていたのと同じ IP アドレスを宛先 VM でも使用します。これには、前の手順でマップされた仮想ネットワークを同じサブネット設定で構成する必要があります。
- ソースと異なる: サービスは、前のセクションでマップした宛先仮想ネットワークで使用される適切なサブネットに対して構成する必要がある各 VM の IP アドレス フィールドのセットを提供します。各 VM に対して、IP アドレス、サブネット マスク、DNS、およびデフォルト ゲートウェイの値を指定する必要があります。必要に応じて、すべての VM に同じサブネット マスク、DNS、ゲートウェイ設定を使用し、すべての VM が同じサブネットに接続される場合のプロセスを簡素化します。
- サブネット マッピング: このオプションは、宛先仮想ネットワークの CIDR 構成に基づいて各 VM の IP アドレスを再構成します。この機能を使用するには、[サイト] ページの vCenter 情報で変更されたとおりに、各 vCenter の仮想ネットワークにサービス内で定義された CIDR 設定があることを確認します。

サブネットを構成すると、サブネット マッピングでは、ソース VM 構成と宛先 VM 構成の両方に IP アドレスの同じユニット コンポーネントが使用されますが、提供された CIDR 情報に基づいて IP アドレスのサブネット コンポーネントが置き換えられます。この機能を使用するには、送信元と宛先の仮想ネットワークの両方が同じ IP アドレスクラス (/xx CIDR のコンポーネント)。これにより、保護されたすべての VM をホストするのに十分な IP アドレスが宛先サイトで使用可能になります。

この EVS セットアップでは、送信元と宛先の IP 構成が同じであり、追加の再構成は必要ないと想定しています。

ネットワーク設定の再構成を変更する

1. フェイルオーバーされた VM に使用する IP アドレスの種類を選択します。
2. (オプション) オプションのプレフィックスとサフィックスの値を指定して、再起動された VM の VM 名変更スキームを指定します。

[レプリケーションプラン、ネットワークリソースの作成]

VMコンピューティングリソースの再構成

VM コンピューティング リソースを再構成するには、いくつかのオプションがあります。NetApp Disaster Recovery は、仮想 CPU の数、仮想 DRAM の量、および VM 名の変更をサポートしています。

VM構成の変更を指定する

1. (オプション) 各 VM が使用する仮想 CPU の数を変更します。DR vCenter クラスタ ホストにソース vCenter クラスタと同じ数の CPU コアがない場合、これが必要になることがあります。
2. (オプション) 各 VM が使用する仮想 DRAM の量を変更します。DR vCenter クラスタ ホストにソース vCenter クラスタ ホストほどの物理 DRAM がない場合に、これが必要になることがあります。

[レプリケーションプラン、VMリソースの作成]

起動順序

NetApp Disaster Recovery は、ブート順序フィールドに基づいて VM の順序付けられた再起動をサポートします。ブート順序フィールドは、各リソース グループ内の VM の起動方法を示します。ブート順序フィールドに同じ値を持つ VM は並行して起動します。

起動順序設定を変更する

1. (オプション) VM を再起動する順序を変更します。このフィールドには任意の数値を指定できます。NetApp Disaster Recovery は、同じ数値を持つ VM を並列に再起動しようとします。
2. (オプション) 各 VM の再起動の間に使用する遅延を指定します。この VM の再起動が完了した後、次に高いブート順序番号を持つ VM の前に時間が挿入されます。この数値は分単位です。

[レプリケーションプラン、ブート順序の作成]

カスタムゲストOS操作

NetApp Disaster Recovery は、各 VM に対していくつかのゲスト OS 操作の実行をサポートしています。

- NetApp Disaster Recovery は、Oracle データベースおよび Microsoft SQL Server データベースを実行している VM のアプリケーション整合性のあるバックアップを取得できます。
- NetApp Disaster Recovery、各 VM のゲスト OS に適したカスタム定義のスクリプトを実行できます。このようなスクリプトを実行するには、スクリプトにリストされている操作を実行するための十分な権限を持ち、ゲスト OS が受け入れ可能なユーザー資格情報が必要です。

各VMのカスタムゲストOS操作を変更する

1. (オプション) VM が Oracle または SQL Server データベースをホストしている場合は、[アプリケーション整合性レプリカを作成する] チェックボックスをオンにします。
2. (オプション) 起動プロセスの一部としてゲスト OS 内でカスタムアクションを実行するには、任意の VM のスクリプトをアップロードします。すべての VM で 1 つのスクリプトを実行するには、強調表示されたチェックボックスを使用してフィールドに入力します。
3. 特定の構成変更には、操作を実行するための適切な権限を持つユーザー資格情報が必要です。次の場合に資格情報を提供します。
 - スクリプトはゲスト OS によって VM 内で実行されます。
 - アプリケーション整合性スナップショットを実行する必要があります。

マップデータストア

レプリケーションプランを作成する最後の手順は、ONTAPがデータストアを保護する方法を特定することです。これらの設定では、レプリケーションプランのリカバリポイント目標(RPO)、維持するバックアップの数、各vCenterデータストアのホスティングONTAPボリュームをレプリケートする場所を定義します。

デフォルトでは、NetApp Disaster Recoveryは独自のスナップショットレプリケーションスケジュールを管理しますが、オプションで、データストアの保護に既存のSnapMirrorレプリケーションポリシースケジュールを使用するように指定できます。

さらに、オプションで、使用するデータLIF(論理インターフェイス)とエクスポートポリシーをカスタマイズすることもできます。これらの設定を指定しない場合、NetApp Disaster Recoveryは適切なプロトコル(NFS、iSCSI、またはFC)に関連付けられているすべてのデータLIFを使用し、NFSボリュームのデフォルトのエクスポートポリシーを使用します。

データストア(ボリューム)マッピングを構成するには

1. (オプション) 既存のONTAP SnapMirrorレプリケーションスケジュールを使用するか、NetApp Disaster RecoveryでVMの保護を管理するか(デフォルト)を決定します。
2. サービスがバックアップを開始するタイミングの開始点を指定します。
3. サービスがバックアップを取得し、それをDR宛先のAmazon FSx for NetApp ONTAPクラスターに複製する頻度を指定します。
4. 保持する履歴バックアップの数を指定します。このサービスは、ソースストレージクラスターと宛先ストレージクラスターで同じ数のバックアップを維持します。
5. (オプション) 各ボリュームのデフォルトの論理インターフェイス(データLIF)を選択します。何も選択しない場合は、ボリュームアクセスプロトコルをサポートする宛先SVM内のすべてのデータLIFが設定されます。
6. (オプション) NFSボリュームのエクスポートポリシーを選択します。選択されていない場合は、デフォルトのエクスポートポリシーが使用されます。

[レプリケーションプラン、データストアマッピングの作成]

続ける"[レプリケーションプラン作成ウィザード ステップ 4](#)"。

レプリケーションプランの作成: ステップ4 - NetApp Disaster Recoveryの設定を確認する

NetApp Disaster Recoveryでレプリケーションプラン情報を追加した後、入力した情報が正しいことを確認します。

手順

1. レプリケーションプランをアクティブ化する前に、[保存]を選択して設定を確認します。

各タブを選択して設定を確認したり、鉛筆アイコンを選択して任意のタブで変更を加えたりすることができます。

レプリケーションプラン設定の確認[レプリケーションプラン設定の確認]

2. すべての設定が正しいことを確認したら、画面下部の*プランの追加*を選択します。

続ける"[レプリケーションプランを確認する](#)"。

NetApp Disaster Recoveryですべてが正常に動作していることを確認する

NetApp Disaster Recoveryでレプリケーションプランを追加したら、[レプリケーションプラン]ページに戻り、レプリケーションプランとそのステータスを確認できます。レプリケーションプランが正常な状態であることを確認する必要があります。そうでない場合は、続行する前にレプリケーションプランのステータスを確認し、問題を修正する必要があります。

図: レプリケーションプランページ[レプリケーションプランページ]

NetApp Disaster Recovery は、一連のテストを実行して、すべてのコンポーネント (ONTAP クラスター、vCenter クラスター、および VM) がアクセス可能であり、VM を保護するためのサービスが適切な状態にあることを確認します。これはコンプライアンスチェックと呼ばれ、定期的に行われます。

レプリケーションプランページでは、次の情報を確認できます。

- 最後のコンプライアンスチェックのステータス
- レプリケーションプランのレプリケーション状態
- 保護された (ソース) サイトの名前
- レプリケーションプランによって保護されているリソースグループのリスト
- フェイルオーバー (宛先) サイトの名前

著作権に関する情報

Copyright © 2026 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および/または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。